



『医療』という言葉聞いて、何を
思い浮かべますか？
外来・入院といった『病院へ行く』
ことをイメージする方が多いので
はないでしょうか。
今回から始まる「わたしのいきか
た」では、外来医療・入院医療の
他に選択肢として加えて欲しい
『在宅医療』について説明してい
きます。

わたしのいきかた

My way of living and dying

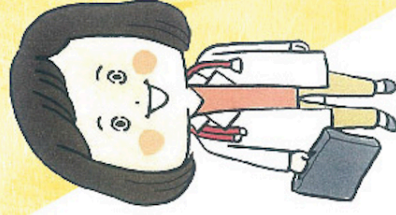


連載第①回 「生き方の選択肢」

医師：たぐい先生

50代前半。頼りになるベテラン
医師。患者さんやそのご家族か
らだけでなく、看護師からの信
頼も厚い、訪問診療のプロ。

※在宅医療を広く伝えたいとい
う思いから生まれたキャラクターです。



初めまして。たくい医院のたくいで
す。診療所内での仕事だけでなく、
患者さんのお家へお伺いして、訪
問診察もしています。

日本では、病気がケガをしたら『入
院』して、治ったら退院して『家』に
帰る。治るまでは病院で過ごすこ
とが当たり前のように思っている
方も多くかも知れません。入院し
ていけば同じ建物の中に医師や看
護師などがいて、設備も整ってい
るから安心ですね。だけど症状が
安定し、さらなる積極的な治療を
必要としない入院の場合はどうで
しょう？一人の時間が長く、我慢
しなくてはいけないことも多い。心
の中では「…家に帰りたいな」と
思っている方も多いようです。た
だ、家族のことを考えると言い出
せない…。入院生活の経験がない
方でも、なんとなくその気持ちを
想像できるのではないのでしょうか。
在宅医療とは症状が安定し、さら
なる積極的な治療を必要としない
人（寝たきりのお年寄り、神経難
病や外傷後遺症のある小児・若年
の方、悪性疾患の患者さんなど）
が対象で、『入院』時と同じような
医療を、家や介護施設など『住み
慣れた場所』で受けることができる
のです。患者さんとご家族が快
適に過ごせるよう、医師と看護師

朝の白湯が
オススメ



イラスト：岩上 善実

だけではなく、患者さんごとに
様々な職種 of 専門職がチームを組
みサポートしていきます。家族だ
けが患者さんの生活のサポートに
奮闘するのではなく、専門職の力
も加わることで家族一人一人の生
活が充実することを目指します。

『病気を治すため』の医療が中心
の入院生活とは違い、患者さんと
ご家族が『暮らしやすいように』医
療が自然と溶け込む支援を在宅
医療では行なっています。家庭
での出来事のほんの一部が医療だ
と感じられるようになれば、「家に
帰りたいな」と言いやすいのでは
ないでしょうか。

患者さん本人が、住み慣れた場所
で医療を受けることを選択して、
本人と家族の心構えがあれば、家
に帰って入院の時のように医療を
続けられるのです。選択肢が増え
ることは生き方の可能性が広がる
こと。すぐ先の未来すら誰にも分
からないからこそ、在宅医療とい
う選択肢があることを知っていて
ほしいのです。